

せポネ

タガヤ ランティア ネットワーク
Setagaya Volunteer Network

P.2-5

特集

NPO法人せたがや子育てネット 法人化 20年を振り返って



まちの市民力

P.6

教育を市民の手に！ 世田谷の教育を考える会



せたがやキラリ人

P.7

気負わないボランティア 小林 正紀 さん



おたがいさまビュー

P.8-P.11

ボランティア募集、講座・イベント・その他 お知らせ

NPO法人せたがや子育てネット 法人化20年を振り返って



せたがや子育てネット研修での集合写真

2024年11月、NPO法人せたがや子育てネットは法人設立から20周年を迎えました。11月29日に開催した20周年記念パーティーには、子育て支援団体や行政関係者をはじめ、これまで活動を共にし、応援していただいた100人以上の方々が集まりました。これまでの活動を振り返りながら、子育て支援のネットワークを再確認し、これからの一歩を踏み出すエネルギーをもらえる場となりました。(表紙の写真)

【第一期】 情報発信とネットワークづくり

前身となる団体は「ママパパぶりっじ」です。分野を超えて市民

文責 / 市川徹いちかわとほる (せたがや子育てネット理事・セボネ編集委員)

活動を横つなぎしようという事業「ぶりっじ世田谷」(1998年)における子育て分野の一プロジェクトとして始まりました。当時はパソコンがようやく普及してきた時期で、子育てにインターネットを活用しようと、「カキコまっぷ」(ネット上の地図に情報を書き込める)と「マイホームページ」(団体情報ページを自由に作成できる)を活動の柱にして、区内各地に向いて子育て情報を共有したり情報交換したりする活動をしていました。

そして、これらに書き込まれた情報をもとに、区の助成金を受けて紙媒体である「子育て応援クチコミガイド」(2002年)を制作しました。区の子育てガイドは公共施設しか載っていないなかったので、子育てに役立つ民間の情報をもっと発信しようとしたものです。これをさらに展開した活動が「子育て情報メッセンジャー」(2004年)です。いったん印



ママパパがっしホームページ

刷に出すと修正がしにくい・枚数が限られてしまうことから、もっと気軽に作成し子育て当事者の方々に配れるものをということと、特定の地域のクチコミ情報を集めた手折りのマップをリソグラフで印刷して配っていました。(最後には20種類以上のマップができました)

一方で、のように子育て情報を集めていたことから、リアルな場で子育て団体を一堂に集めて子育て情報を当事者に届けるイベント「世田谷子育てミニメッセ」(2002年)の立ち上げに関わります。ここで、事務局として本格的に区からの委託事業を受けるため、2004年に「せたがや子育てネット」として法人化をする



世田谷子育てミニメッセ

こととなりました。そして、もっと身近なところでメッセを開催しようと、地域別に子育て団体同士の交流を目的とした「地域別懇談会」(2005年)を開催したり、さらにはこのつながりを生かして、区の「子ども計画」策定に向けた意見収集の場を運営したりしました。(この動きはつながりです)

委託事業としてのメッセは2007年まで続き、その後、子育てネットはその経験を生かして東京都のネットワークづくりに関わります。「子育て応援とうきょう会議」(2008年)という、社会全体で子育てを支えることを目的に設立された会議

体のネットワーク事務局を担い(東京都委託事業、都内の子育て団体の交流と子育て支援の機運醸成を目的とした協働フォーラムなどを数年にわたり実施しました。世田谷区内のみならず、区外までエリアを広げた、このときのワークシヨップの経験やネットワークの蓄積は、後の子育てネットの大きな強みになったのだと思います。

【第2期】 子育て中の親子の居場所づくり

この頃、情報収集・発信およびネットワークづくりから活動が徐々に広がり始め、リアルな活動拠点を持つことの必要性を感じ始めるようになりました。そんな中、以前より商店街でのイベントを手伝っていたご縁から、下北沢一番街商店街事務所の上が空いているという話をいただき、商店街の協力と国の補助金を受けて「コミュニティカフェがっし@shimokitai (2006年)を開設することになりました。

ここでは、子育て家庭や多世代



コミュニティカフェがりっじ
@shimokita

の人々がふらっと来られる場所として、日中はカフェ営業やランチ提供をしたり、イベントスペースとして場所貸しを行ったりしました。団体としても、女性の創業支援事業「BabySteps」（2010年）、学生企画で商店街を盛り上げるイベント「学生アクシヨンプラン」（2010年）を実施したりもしました。また、下北沢を子育てにやさしいまちにしようと、商店街や駅などで子連れ親子への配慮を働きかける「子育てにやさしいキャンペーン」（2006年）を実施したりもしました。

しかし、3年間で補助金が終わり、家賃の問題もあって残念ながら下北沢から撤退することになりました。たまたま経堂でよ



おでかけひろばがりっじ@ roka

い物件が見つかったこともあり、2010年に事務所機能はそちらへ移転。並行して、UR都市機構より芦花公園団地のキッズルームを活用できないかという話をいただき、子育て支援の機能として「キッズスペースがりっじ@roka」（2010年）を自主運営することになりました。（なお、2014年に区の補助事業に採択され、「おでかけひろばがりっじ@roka」として現在も継続）

その後、この実績を踏まえ、地域で子育て支援活動が求められている地域に「おでかけひろば」をオープンすることになりました。単に物件を借りるのではなく、地域に自宅の一部を開放する「地域共生のいえ」や、空き物件を地域

のために活用する「空き家等地域貢献活用」などの世田谷区や世田谷トラストまちづくりの事業を活用し、地域に特色のある子育て支援拠点として、今に至るまで5つのおでかけひろば（烏山「がりっじ」・瀬田「まーぐる」・深沢「すぱーん」・奥沢「おりーぶ」・宮坂「ぶれす」）を運営し地域の子育て家庭を支えています。

【第3期】 区や他団体との協働による展開

このように区との関係を深めるきっかけとなったのは「区民版子ども子育て会議」（2014年）です。これは、区内で子育て支援活動をしている団体や個人、行政担当者などが集まって立場を超えて話し合う場で、行政公式の「子ども・子育て会議」に対してのいわゆる「裏版」。公式は限られた委員で数多い議題を話し合う場であるのに対し、多くの関心ある人々がゆるく話し合う場があったもよいのではということが始まったものです。当初はちょうど区の「第二期子ども計画」（2015年）

の策定に合わせて、「切れ目のない子育て支援・外遊び・保育・若者支援・地域資源」などのテーマで実施しました。

そして、様々な団体や行政との協働から、地域子育て支援コーディネーターによる子育て相談と子育てに役立つ地域資源の発掘に特化した「利用者支援事業」（センター・烏山地域2015年、玉川地域2019年）、中学生に赤ちゃんのことを知ってもらおうと子連れ家庭と一緒に学校の授業に行く「赤ちゃんふれあい体験授業」（2020年）、これから親になる家庭を対象に妊娠・出産・育児について学ぶ「両親学級事業」（2023年）など、子育て支援のニーズを先取りした様々な事業



区民版子ども・子育て会議

を担ってきています。また、おでかけひろばの運営経験を生かし、多世代交流型の新しい居場所づくりとして、2023年には寺町通り区民集会所の一角に「まちの縁がわくぶんぶくテフマチ」をオープンしました。そして、それ以外にも、コロナ禍を経て見えてきた生活困窮家庭に対する支援活動として、「せたがやこどもフードパントリー」（2020年）の活動にも関わり、区や多くの子育て支援団体から有形無形の協力をいただいています。

せたがや子育てネットのこれから

代表理事の松田妙子まつだ たみこが各種講演で「子育て支援は大玉送り」と伝



赤ちゃんふれあい体験授業

えているように、子育て支援は一団体だけの力でなんとかなるものではなく、団体・個人などの立場を問わず地域の人々の協力が不可欠です。子育てネットではこれまで、地域に必要と思われる事業をまずは自主事業としてモデル的に実施し、その実績をもとに区の補助事業・委託事業として継続的なものとしてきました。その一方で、一つの事業を単に自団体だけで受託するのではなく、他団体と分担したり連携したりなどして、地域全体で子育て支援サービスを担えるような「地域の子育て力」を育むように務めてきました。

子育てネットのキャッチコピーは「子育てしながら街に出よう！」。この通りに、子育て中の親子が安心して街に出て行けるようなまちづくりをこれからも進めていければと思います。子育てをしている、していないにかかわらず、地域に暮らす一員として、子育て家庭を温かく迎えられる地域になるよう、みなさまの引き続きのご協力・ご支援をぜひお願いいたします。

教育を市民の手に！ 世田谷の教育を考える会



学習会の様子

「世田谷の教育」とは、あまりに守備範囲が広そうですが、どんなことを考える会なのでしょう。もともと教育をめぐるさまざまな動きに対して、こどもたちにいい学びの環境をつくりたいと願う教師や親たち、市民団体が手を携えようというゆるやかな動きから始まりました。2011年ごろからは、「教科書採択の問題」に取り組むことに。これまでの歴史教科書を「自虐的」と決めつけ、戦争における日本の加害責任をまったく問うことをしない「新しい歴史教科書をつくる会」の教科書が検定合格となり採択の対象になるという状況を危惧して、小中学校の歴史教科書を考える講演会を行っ

たのです。

教師にとって教科書はいわば商売道具。大工さんの「のこ」や「のみ」のようなものです。文科省の検定を受けたさまざまな教科書の中からどれを選ぶのかは死活問題。教育委員会による採択に先立ち、「教科書展示会」が毎年開かれます。教師だけでなく一般市民も見に行くことができますが、問題は肝心の先生たちが訪れる場所や時間が限られていること。はじめのうちは区内にわずか三か所だったのが、今は五か所で展示時間も少し長くなりました。

「考える会」の要請により「教師が出張扱いで勤務時間中にも来れるようになりました。また採択する教育委員会の傍聴の場も広くなり、希望者全員が入れます。」と元小学校教師で事務局を担う岸塚さん、名谷さんはいます。

「展示会でのアンケートは教育委員の判断材料にもなっていると感じます。『科学的に真実が書いてあるものを選ぶ』と言われた委員もいましたから。「教師だけでなく、こどもたちにいい教育」

をと願う多くの親たち、市民に関心を持ってほしい。関心が薄まると危険なことも起きてきますから。教科書から教育が見えてきます。社会や道徳だけでなく、「性教育」を含む「保健体育」の教科書、「平和」に関わる教材が含まれる国語の教科書にも目を配らなくてはなりません。

毎年企画する学習会では、「学習指導要領改訂」、「教育委員会制度改正」「タブレット端末導入の功罪」など、世田谷の教育に関するさまざまな課題を取り上げ、教育委員会や区議会文教常任委員会の傍聴も積極的に行います。

「世田谷平和資料館」は今年設立10周年。子どもたちのために「平和」を希求する多くの区民たちが資料館に集えるような企画が「考える会」とさまざまな市民団体によって実現したら素晴らしいことでしょう。

「教員、保護者、区民との交流を、他の団体ともつながりあい、どうやって若い世代に輪を広げていけるのかがこれからの課題」と「考える会」は今年も歩を進めます。

せたがやキラリ人

世田谷区を中心に活躍する
キラリと光る素敵なたををご紹介します
取材・近藤 浩紀



気負わないボランティア
小林 正紀さん
こばやし まさのり

小林さんは世田谷ボランティア協会と25年以上関わってくださっています。2011年3月号のセボネに初登場して以来、14年ぶりの登場となります。この間も協会の活動に関わり続けていて、改めていろいろとお話を聞かせていただきました。

舞台制作会社に勤め、社会人2年目だった小林さんは、「仕事だけしているのもどうなのかなあ」という思いから、ボランティアをしようと、当時、千歳船橋にあった世田谷ボランティアセンターを訪ね、ふらっと船橋の紹介をうけたのが1997年秋でした。翌年1月に世田谷でも大雪が降り、ふらっと船橋に初めて電話をし、雪かきのボランティアをしたのが世

田谷ボランティア協会での最初のボランティアでした。この時出会った元協会職員とは、今も繋がっています。

もともと人助けをしたいという気持ちがあった小林さんは、1995年1月の阪神淡路大震災でのボランティア活動が最初だそうです。発災から1週間後、たま新聞で見かけた社会福祉協議会に電話をし、翌日には神戸市灘区に向かい、ボランティアセンターに宿泊まりしながら活動していたそうです。「当時は大学4年生で授業もないし、単位も取れていたので、すぐに準備していきました。若さゆえの行動ですね(笑)」神戸での活動は、障害者のお宅を訪問し、生存確認や困っていることを聴き取ることでした。また、崩れそうな障害者施設で、がれき撤去の作業もされたそうです。「怖いという気持ちよりもやらなきゃという気持ちで動いていました。いい経験でしたね。」と当時を振り返っていました。

昨年4月には能登半島地震でも



イベントで売り子をする小林さん

せたがや災害ボランティアセンターのボランティア派遣に参加しましたが、「自己満足というよりも、何かしらお役に立てればと思っただけです。実際に寄り添っているかどうかはわかりませんが、行くことで何かの役に立てればくらいに考えています。ボランティアをしに行くというよりも、お手伝いできることを行って、自分ができるときをやる程度、気負ってはいないんです。それが結果的に25年以上続けることにつながったと思います。」と思いを伝えてくれました。

「何かあったら、いつでも連絡して。イベントのことは任せて。なんでも相談して！」と心強い言葉をいただき、ご縁に感謝を感じたインタビューでした。

4歳男児と日曜日に遊んでくれる方を募集

長年夫の介護をしている70代女性が4歳になる男のお孫さんの育児を担うことになり、手助けを必要としています。男の子は平日保育園に通っています。今のお気に入りには車、恐竜、虫、花など。日曜日に近所の公園や児童館などで1～2時間遊んでもらえると助かります。上用賀在住です。詳細はお問い合わせください。

- 日時/日曜日で1～2時間程度。時間は応相談。
- 場所/上用賀 ●交通/東急田園都市線用賀駅、または小田急線千歳船橋駅が最寄り駅
- 条件/交通費実費支給(上限500円)
- 問合せ/玉川ボランティアビューロー 担当 市古 TEL: 03-3707-3528
メール: tamabora@otagaisama.or.jp

【急募】夕方に4歳の男の子を幼稚園から自宅まで電動自転車ですべてくれる方を募集

駒沢大学駅周辺で2人のお子さんを育てるお母さんが、4歳の男の子を幼稚園から自宅まで電動自転車でお迎えして下さる方を探しています。現在、お母さんは大きな病気を患っており、薬の副作用で体調が優れない状態です。日々工夫をしながら送り迎えをしていますが、週1回でも手伝っていただけると助かります。男の子は、人とお話しすることが大好きで自転車に乗りながら幼稚園での出来事を笑顔で話してくれます。その他詳細はお問い合わせください。お手伝いいただける方のご連絡をお待ちしております。
(お迎えの流れ)

17時までにご自宅からご家族の電動自転車を使い幼稚園に向かった後、男の子を乗せてご自宅までお送りする流れになります。

- 日時/火～金曜の16時45分～17時30分の間(週1回でも可)
- 場所/駒沢大学駅周辺の自宅から幼稚園までの往復
- 交通/自宅は東急田園都市線駒沢大学駅から徒歩5分以内。幼稚園は自宅から自転車ですべて10分以内 ●条件/女性
- 問合せ/世田谷ボランティアセンター 担当 小畑 TEL: 03-5712-5101
メール: obata@otagaisama.or.jp

【大学生大募集】小中学生への学習支援ボランティア(第1・第3土曜日13時15分～)

認定特定非営利活動法人キッズドアでは、ひとり親・生活困窮世帯の小中学生を対象に無償の学習支援事業を区内5箇所で開催しています。学習会には勉強を教えてほしい子、居場所を求めている子、さまざまなニーズの子があり、ボランティアと生徒が1対1または1対2で学習に取り組んでいます。教科指導の経験がなくても、教育経験がなくても大丈夫！子どもといっしょに時間を過ごして下さる方を募集しています。

- 日時/第1・第3土曜日13時15分～17時
- 場所&交通/
- ①三軒茶屋教室：東急田園都市線池尻大橋駅下車 徒歩7分
- ②成城教室：小田急線祖師ヶ谷大蔵駅下車 徒歩3分
- ③玉川教室：東急大井町線九品仏駅下車 徒歩3分
- ④烏山教室：京王線千歳烏山駅下車徒歩10分
- ⑤北沢教室：小田急線世田谷代田駅下車 徒歩13分
- 条件/大学生(往復上限1000円まで交通費支給)月1回以上参加できる方
- 問合せ/認定特定非営利活動法人キッズドア TEL: 070-1591-4230
メール: setagaya@kidsdoor.net

世田谷区いずみ学級（知的障害者の青年学級）でボランティアしませんか？

いずみ学級は、知的障害のある人たちと、彼らを支え共に学び、活動するボランティアにより運営する学級です。一年を通してレクリエーションやクラブ活動、バスハイク、クリスマス会、ミーティングなどの活動をしています。学生や社会人、主婦など、老若男女問わずさまざまな人たちがボランティアに参加しています。資格等は不要です。知的障害のある人たちと関わることに関心のある方なら、誰でも参加できます。

ボランティアの募集は年間を通じて行っています。詳細は、世田谷区公式ホームページから、ページIDに3587を入力してご覧ください。

- 日時／月1回～2回、日曜日の9時50分～15時30分
- 場所／世田谷中学校、八幡中学校、芦花中学校（外出行事もあります）
- 交通／世田谷中学校：東急世田谷線若林駅徒歩10分
八幡中学校：東急大井町線九品仏駅徒歩8分
芦花中学校：京王線芦花公園駅徒歩8分
- 問合せ／世田谷区教育委員会事務局生涯学習課 いずみ学級担当
TEL：03-3429-4259

お弁当作りの調理ボランティア募集

お弁当作りの調理ボランティアをやってみませんか？ 食事作りが何らかの理由で困難になった方の家に、野菜たっぷりの家庭料理をお弁当にしてお届けする「配食サービス」を40年ちかく運営しています。お弁当の調理も配達も地域のボランティアが行っており、20代～80代のボランティアが元気に活躍しています！ 調理初心者でも大丈夫。ぜひ一度見学してみませんか？お気軽にお問合せください。お昼ご飯は作り立てのお弁当と一緒に食べます。

- 日時／月～金曜日8時30分～13時30分頃 ※週1回から可能
- 場所／食事サービスサポートセンターだんらん 第2調理室（世田谷区鎌田3-13-1）
- 交通／バス：成城学園前駅⇄二子玉川行「砧南中学校前」下車1分
- 条件／食事作りに関心のある方
- 問合せ／老人給食協会ふきのとう 担当 佐野 TEL：03-3706-2545
メール：sano@mow.jp

車いす利用高齢者の散歩同行と発語練習の手伝い求む

脳梗塞の後遺症で右半身麻痺と失語症のある80代の男性が、「①車いすを押し一緒に散歩してくれる方」と、「②発語の練習のために一緒に歌を歌ってくれる方」を求めています。ご本人は週の大半は高齢者施設で生活していますが、週末は野沢の自宅と過ごしています。これまで散歩は奥様が付き添っていましたが、奥様も腰を痛めてしまったので、代わりに日曜日に1時間ほど散歩に同行してくれる方を探しています。なお、自宅の玄関が2階なので、外出時は階段昇降機を使用します。車いすから昇降機への移乗時にも手を貸してほしいので、男性にお願いしたいです。

発語練習は、弦巻にある高齢者施設内でお願います。ご本人は、好きな唱歌や童謡を歌うと言葉が出やすくなるので、上手に歌うのではなく、「言葉が出るように」「ゆっくりと」一緒に歌を楽しんでくださる方をお願いしたいです。詳細はお問い合わせください。

- 日時／①散歩：毎週日曜 時間応相談 1時間程度
②発語練習：火曜～金曜（火曜のみ午後） 時間応相談 1時間程度
- 場所&交通／①散歩：野沢1丁目の自宅周辺（「野沢銀座」バス停徒歩5分）
②発語練習：弦巻5丁目の高齢者施設（「農大前」バス停徒歩6分）
- 条件／①②共通 謝礼1回1000円（交通費込）、①散歩：男性、②発語練習：性別不問
- 問合せ／世田谷ボランティアセンター 担当 原口 TEL：03-5712-5101
メール：haraguchi@otagaisama.or.jp

上記掲載記事は1月17日時点の情報です。
変更となる場合がありますので、詳細は問合せ先へご確認ください。

講演会「世界に通じる力を育てる」

英語だけでも大変なのに多言語なんて…とっていませんか？ 多言語広場セルラスでは、誰でもが持っている能力を生かした方法で、多言語を習得する活動を行っています。そして多くの言語を習得していく過程を通して 4 つの力を育てています。なぜ言語を習得していく過程でこれらの力が育つのかをお話します。

- 日時／① 2月18日(火)9時45分～11時45分、② 2月20日(木)9時45分～11時45分
- 場所／成城ホール 4階 ① 2月18日(火): 集会室 E ② 2月20日(木): 集会室 A & B
- 募集／先着 40名 入場無料
- 申込／<https://celulas.or.jp/?p=7572> (インターネットでセルラスと検索してください)
- 問合せ／NPO 法人多言語広場セルラス (ホームページからお問い合わせください)

東京の全員就学 50 年&東京都寄宿舍連絡会 40 周年記念フェスティバル

障都連(しょうとれん)は、障害者と家族の生活と権利を守り、要求を実現させるために障害の種別を越えて運動を進める団体です。この度、「東京の全員就学 50 年記念行事実行委員会」を立ち上げ、この 50 年の障害児教育、特別支援教育の歴史、今後の展望を学び、語り、楽しむ行事を、東京都寄宿舍連絡会 40 周年とともに祝いし、「全員就学 50 年」と「東京都寄宿舍連絡会 40 周年」共催の記念行事を企画しました。地域のみなさんもう一緒に誰もが楽しめるフェスティバルです。みなさま、光明学園でお会いしましょう。

- 日時／2月9日(日) 10時～15時
- 場所／東京都立光明学園(世田谷区松原 6-38-27)
- 交通／小田急線梅ヶ丘駅下車徒歩約 5 分
- 問合せ／東京の全員就学 50 年記念行事実行委員会
メール: shotoren@shogaisha.jp

個別の学習支援を必要としている方、ご相談ください

世田谷ボランティア協会では、「発達障害や学習障害の傾向があったり、不登校の経験があり、学習の理解の面で苦勞をしている」「勉強に向き合うことが苦手。学校の授業についていけない」などの相談を受け、小学生～高校生の個別の学習支援に取り組むボランティアを探して紹介しています。現在は、オンラインでの学習支援にも対応しています。勉強への気持ちや、学ぶポイントなど、本人のペースや特徴を尊重していきます。お気軽にご相談ください。

- 問合せ／世田谷ボランティアセンター TEL: 03-5712-5101
メール: v-soudan@otagaisama.or.jp

AI システムによるマッチングサイトのお知らせ

「趣味や技術、経験を生かしたい」「地域で活動したい」という、ボランティア活動をしたい方の経験や意欲などと、サポートを求める方や団体などを、東京大学先端科学技術研究センターが開発した AI システムによるマッチングサイト(世田谷版 G B E R 「ジーバー」)で結び付け、ボランティア活動を支援します。

詳細は右記二次元コードからご覧ください。



世田谷ボランティア協会福祉事業部常勤職員募集（作業療法士、訪問介護員、支援員）

社会福祉法人世田谷ボランティア協会は、障害のある方の生活を様々な制度を利用しながら支援し、障害による困りごとを共に考え、支えあいの窓口となれるよう5つの事業を運営しています。今回2つの事業所で常勤職員を募集します。

ケアセンターふらっと

- 【職務内容】 中途障害の方、高次脳機能障害のある方が中心のデイサービスで、その人に合わせた支援をします。
- 【必要条件】 作業療法士、介護福祉士、社会福祉士のいずれかが必須。普通自動車運転免許を所持し、日常的に運転のできる方（AT限定可）
- 【就業場所】 世田谷区下馬 2-20-14（東急田園都市線三軒茶屋駅徒歩12分）
- 【勤務日】 月曜日から土曜日までのシフト勤務で週5日、8時30分から17時30分まで（休憩時間1時間含む）休日：毎週日曜日と他1日、祝日、夏季・年末年始
- 【待遇】 198,500円 ～ 279,700円（定額手当含む）
※学歴、職務経歴により上限金額を超える賃金を支払う場合あり。
賞与：年2回（2023年度実績4.4カ月）。
介護業務推進手当：年1～2回支給（10～22万円）
- 【担当】 高波・和田 TEL：03-5712-5105

ケアステーション連

- 【職務内容】 高齢者や障害をお持ちの方への訪問介護と、サービス提供責任者としての業務を行います。
- 【必要条件】 介護福祉士が必須。
- 【就業場所】 世田谷区下馬 3-22-13（東急田園都市線三軒茶屋駅もしくは駒沢大学駅徒歩各15分）
- 【勤務日】 月曜日から土曜日までのシフト勤務で週5日、8時30分から17時30分まで（休憩時間1時間含む）休日：毎週日曜日と他1日、祝日、夏季・年末年始
- 【待遇】 198,500円 ～ 279,700円（定額手当含む）
※学歴、職務経歴により上限金額を超える賃金を支払う場合あり。
賞与：年2回（2023年度実績4.4カ月）。
介護業務推進手当：年1～2回支給（10～22万円）
- 【担当】 石崎 TEL：03-6805-4716

個別のサポートを必要としている方、ご相談ください

世田谷ボランティア協会では、ボランティアの力を必要としている方と、ボランティアをつなぐ橋渡しをしています。困りごとを抱えていたり、どこに連絡したら問題を解決できるのかわからないという方は、ぜひご相談ください。電話でお話ししながら、どんなことができそうか、どんな解決方法がありそうか、一緒に考えます。

- 問合せ／世田谷ボランティアセンター TEL：03-5712-5101
メール：v-soudan@otagaisama.or.jp

市民活動・NPO相談

世田谷区内で活動を始めたい方や、すでに活動している方を対象に団体、個人を問わず、グループ・団体、法人の立ち上げや運営に関する基礎的な相談・情報提供を行っています。相談をご希望の方は問合せください。また会計、税務、契約、社会保険、雇用、法律の専門相談も行っています。（原則として事前予約制です）

- 問合せ／最寄りのセンター、および各ビューローにご連絡ください。電話番号は裏表紙参照、専門相談はセンターにお問い合わせください。

上記掲載記事は1月17日時点の情報です。
変更となる場合がありますので、詳細は問合せ先へご確認ください。

世田谷ボランティア協会の活動・支援拠点



相談・お問い合わせ先

- ボランティアについて ▶ 【世田谷ボランティアセンター、各ボランティアビューロー】
- 災害ボランティアについて ▶ 【せたがや災害ボランティアセンター】
- リハビリについて ▶ 【ケアセンターふらっと、ケアセンター with】
- 訪問介護について ▶ 【ケアステーション連】
- 介護プランについて ▶ 【ケア相談センター結】
- 障害について ▶ 【ぼーとせたがやスペース ココカラ。】

ご意見・ご感想等お寄せください

皆さまのご意見・ご感想などをお待ちしております。「こうい
ったボランティア情報が読みたい！」などもございましたら、
お気軽にお寄せください。



協会ホームページ、
Facebook、Instagram は
こちらの二次元コードから
ご確認ください！



ホームページ



Facebook



Instagram

本誌掲載記事の無断転載を禁じます。